

～勇気ある決断～

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 竹ノ内賢一郎
◆編集責任者/担当 副会長 上田康文 ◆制作・編集 第42期広報委員会/委員長 石原 効

11月例会開催

平成28年11月15日(火)米子全日空ホテルにて広報委員会担当の11月例会が開催されました。



冒頭で竹ノ内会長より「この青年中央会は役割を学べる場である。副委員長は委員長を支える、委員長はいろんなことでリーダーシップをとりつつ上層部の指示を聞いたりする、副会長は会の中核で決定権もある。このように組織の仕組み等を学べると思う。これから新しい人も学びどんどん挑戦して行って欲しい」と挨拶された。

続いて、佐嶋会員の所属する株式会社佐嶋工務店の本店新社屋の完成を記念して会よりお祝いがあり、佐嶋会員が「これからは地域にもっと貢献し、会社も大きくしていきたい」と感謝の意と抱負を述べられた。

そして、広報委員会石原委員長より「本例会は2部構成です。第1部では松井淳一氏から『効果的なメディア活用について』との演題で講演していただきます。第2部ではグループディスカッションを行い、第1部で学んだことをもとにメディア向けプレスリリースタイトルを作成して、プレスリリースの手法・活用法を学んで頂きたい」と例会の趣旨を説

明された。



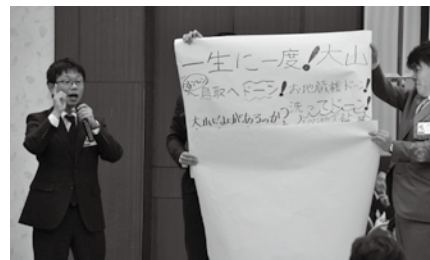
松井氏による講演は、①「あふれるメディアとその潮流」、②「効果的なメディア活用」、③「具体的なメディアへのアプローチ」の3つで構成されており、①では

SNS・IoT・インダストリー4.0の説明があり、②では新聞やTVの広告と広報の違い、広報活動による企業への効果を学び、③でプレスリリースの利用と活用法を話していただきました。



第2部では、8つのグループに分かれて大山お地蔵さまプロジェクトを全国版メディアに向けてプレスリリースすると仮定してタイトルとリード文を考え、グループ毎に発表されたタイトルでは、頭に残るものやユニークなもの、気になるものなど色々なタイトルが出て大いに盛り上がりました。

最後に、広報委員会担当上田副会長より



「今後メディア活用は我々中央会、所属企業にとっても必要不可欠だと思います。特に新聞TV等信用性の高いメディアに無償で取り上げてもらえるプレスリリースは、中央会の活動をより外部の方に知って頂くことができます。そして外部の方から中央会の活動はいいねと言ってもらえればモチベーションもあがり、より良い活動に繋がると思います。そのことは所属される会員企業にも同じことが言えると思います。本日この例会で学んだことを各会員の企業に持ち帰り、明日からの広報活動に役立てていただきたい」と総括があり、本例会は閉会となった



(記事:新井)

11月例会を終えて



11月例会は、「情報発信の手段・手法・活用法」～特性を生かした情報発信～をテーマに2部構成で行いました。第1部講演では、昨今多くのメディアがある中で、その特性を生かし、効率よく効果的に情報発信して外部の方に知ってもらうことの重要性を改めて認識していただけたのではないかと思います。そして第2部は、継続事業である「第2回お地蔵さまプロジェクト」を題材としたプレスリリースタイトル・リード文を実際に考え、第1部で学んだことを身につけてもらうために行いました。今後の中央会のPRや各会員企業に持ち帰って活用してもらえることを願っています。

入会から今まで多くの例会を見て学ばせてもらいましたが、私が委員長になったら手作り例会がしたいと思っていました。それが実現でき、幸せな気持ちです。準備から例会当日までの数か月、委員会メンバーと力を合わせ、ときには議論し合って、良い例会ができました。そして委員会メンバーの絆も深まったと思います。今回の例会を通じて学んだことをこれからの委員会活動と仕事に繋げていきたいと思っています。

とにかく広報委員会メンバーに感謝の気持ちでいっぱいです。

広報委員会 委員長 石原 効
(石原電気設備 代表)

12月例会に向けて

匠委員会委員長 村田 博
(村田株式会社 代表取締役)



『伝統文化の精神と魂の継承』

今期、匠委員会は竹ノ内会長から「鳥取県西部地域の伝統技術・文化・名産の保護と継承について探求する」というテーマを頂きました。第1部では匠体験ということで、手作り例会を考えています。太鼓を自ら演奏することで人から人へ文化を継承し、また名産品として県外にも製作・販売をされている鳥取県

伝統工芸士の奥日野源流太鼓 代表 大柄重人氏をお招きします。鳥取県西部地域の伝統芸能への関わり方をお聞きし、太鼓づくりを実際に体験しその技術に触れることで、文化・精神を感じ、気付きを得て頂けたらと思います。

第2部では忘年懇親会を開催します。上期の労を讃え合い、会員間の親睦を深めると共に、下期は更に高く飛翔できるよう盛り上げていきます。第42期竹ノ内会長年度が何十年先にも記憶に残る年になるような例会にしたいと考えていますので、皆様ご出席いただきますようお願い致します。

社長就任

有限会社光琳 代表取締役社長 今川圭一



先月、11月1日より弊社有限会社光琳の代表取締役社長に就任致しました。就任に際しましては、沢山の皆様よりお祝い並びに励ましのお言葉を頂きありがとうございます。また、11月例会懇親会におきましても、竹ノ内会長をはじめ会員の皆様方よりお祝いして頂き感謝、御礼申し上げます。

私が弊社に入社したのは平成13年3月、23歳の時でした。そして翌年9月に新店舗設立に伴い、責任者として米子市に転勤して参りました。それから3年後、諸先輩方のお誘いや当時社長の勧めもあり西部青年中央会に入会させて頂きました。弊社では現場業務、管理業務を経て現在の立場となりました。入会当初から右も左も分からなかった私にご親切に接して頂いた諸先輩方、長きにわたり活動を共にしてきた皆様方のご指導ご鞭撻があったからこそ、今の自分があると考えています。しかし、まだ人間的にも経営者としても未熟者ですので、今後も皆様方から叱咤激励を頂き成長していきたいと考えております。

また、今回の社長就任に伴い、本社があり生まれ育った鳥取市へ帰ってしまいましたが、西部青年中央会並びに米子愛は変わることにはございません。微力ではございますが、この素晴らしい地域に何かしらの恩返しができるような経営者になれるよう精進して参ります。

第2回大山お地蔵さまフェスティバル成功祈願



11月7日(月)、高井委員長率いる積善委員会のメンバーを中心に大山寺で成功祈願を行って参りました。市内とは違って肌寒く、澄んだ空気と厳かな空間に心が洗われるようでした。

成功祈願後も、積善委員会のメンバーはフェスティバルの企画について薄暗くなるまで熱く語り合っていました。

来年5月14日(日)、第2回大山お地蔵さまフェスティバル、大成功間違いなしです！

(記事:野口)

新入会員オリエンテーション

11月17日(木) 松涛園にて平成28年度新入会員オリエンテーションが開催された。冒頭竹ノ内会長が挨拶され、「ぜひ今日一日を有意義なものにして頂きたい。在籍することは



誰にでもできる。様々な事業にしっかり参加することで、先輩方に認められてこそこの会にいる意義がある。今日の話をしっかりと胸に刻んで、懇親を深めて頂きたい」と話された。

その後福山専務理事がスローガン“翔人”、テーマ“勇気ある決断”、また年間活動指針について説明された。「中央会の活動が自分にとってどういう意味を持つのかは皆さま次第です。すばらしい中央会活動をして頂き、自身の成長に繋げて頂きたい」と話された。

続いて積善委員会のメンバーから、中央会の組織、OB会との関わり、トライアスロンとの関わり、ホームページや広報誌、周年事業や継続事業など中央会活動について詳細かつ丁寧に説明が行われた。質疑応答では広報誌ハンサムの名前の由来や新入会員の推薦人についてなど様々な質問があがった。

最後に松田直前会長が「中央会に入って損したことは一つもない。自身の成長、会社の成長に役立つ会だと思っているので、これからの中央会活動、一日たりとも無駄にすることなく、楽しみながら頑張って頂きたい」と挨拶をされ閉会した。

(記事:福島)

県青中交流事業開催

11月6日(日)、鳥取市湖山池の青島にて、鳥取県中小企業青年中央会交流事業が行われた。

心配された降雨は無かったものの折からの強風が湖面を渡って、風をささぎるもの無い場所では体感温度が数度低く感じられる程で、防寒対策の重要性を思い知らせてくれる幕開けであった。

松岡県会長の挨拶の後、各地区混成で10チームに分かれてのクイズウォークラリーに移った。



クイズの中には、会員としての常識問題や各地区が知恵を出し合わないといけない問題、鳥取県民なら……といった趣向を凝らした問題の数々があり、参加者達は悪戦苦闘しながら青島を回ったのであった。

終了後、会場を移しての懇親会では表彰式が行われ、入賞した上位3チームは商品の肉を獲得した。懇親会では各地区の粋を超えて大いに盛り上がり、各地区の懇親が一層深まったのであった。

担当された県役員・並びに東部の会員の皆様、お疲れ様でした。

(記事:竹谷)

OB訪問 太田法律事務所

太田正志OB（第20期ご卒会）を訪ねて



（第18期ご卒会）とお知り合いで、推薦して頂ける事になったのが入会のきっかけだそうです。

現役の時には2度も副委員長を務められました。中でも米子空港の滑走路延長を取り扱った委員会で、美保基地との折衝

今月は第20期ご卒会の太田正志OBを訪ねました。応接室へ案内されると、会員名簿やハンサム綴が！訪問に合わせて準備して下さっていました。

弁護士になられて3年目、独立を機に米子へ戻ってこられた太田OBですが、お父様が中島俊二OB

を重ね委員会メンバーでC-1輸送機に乗せてもらった事が印象に残っているとのこと（太田OBご自身はお仕事の都合で乗れなかったそうですが…）。

日々の業務と中央会の活動とで大変だったそうですが、「一番忙しい時の人間関係は一生続く。その関係を大切に」「先輩の言うことを守る」とのアドバイスを頂きました。「大変だったけど、楽しかった。やってよかった」と仰る太田OBの晴れ晴れしい表情に、自分も将来そう言えるよう頑張ろうと思いました（私が卒会できるのは、あと何年先でしたっけ?）。

最後に、太田OBから「当時を思い出すことができ良かった」とのお言葉が！大変お忙しいなか、貴重なお話を頂きまして有難うございました。

（記事：高田）

中央会 Q & A

これまで何人の弁護士が西部青年中央会を卒会されたのでしょうか？

～答えはHPIにて～

委員会訪問 ～積善委員会～

11月7日（月）米子ニューアーバンホテルにて開催された積善委員会を訪問させて頂きました。

全員出席の中行われた委員会は、まず高井委員長より役員会報告がありメンバー全員真剣に聞き入っていてスムーズに進みました。その後一人一人から会員拡大進捗状況の確認、11月17日（木）に予定されている新入会員オリエンテーションについての最終確認が行われました。すでに細部まで話が詰めてあり、メンバー全員の結束力を感じました。

始まるまでの和んだ雰囲気とは打って変わって、メンバー全

員の真剣な表情と、ピリッとした空気感が印象的な積善委員会でした。皆様ご協力を頂きありがとうございました。

（記事：福島）



鳥取県西部地区青年経済団体連絡協議会交流事業

フットサル大会開催



11月19日（土）に鳥取県西部地区青年経済団体連絡協議会の交流事業として、米子東山体育館にてフットサル大会が実施された。開会冒頭、幹事団体境港JCの門脇理事長より、「普段なかなか交流する機会が少ないので、しっかりと交流を深めましょう」という挨拶があった。フットサル大会はトーナメント形式で行われ、結果は、1位：米子JC、

2位：中央会、3位：米子YEG、4位：境港JCという順位であった。時折、プレーが熱くなることもあったが、大きな怪我もなくフットサル大会を終えた。その後、ワシントンホテルにて懇親会が実施された。懇親会では、各表彰式もありつつ、他団体との交流をしっかりと深めた。次回は米子YEGが35周年という節目で幹事団体を迎えることになる。

（記事：松井）



後輩へ

早いもので、入会して6年が経ち、もうじき卒会を迎えることとなりました。私は葬仙に入社して1年足らずで中央会に入会したため、初めは参加する時間をつくるのに四苦八苦し、仕事を残して中央会に出掛け会社に後ろめたい気持ちでした。そんな浅い私を見かねた先輩が「時間をつくるのも能力のうち」「自分がやらねば、と気負うな。人がやれるように教えるのも仕事」と諭して下さったのをよく覚えています。そんなアドバイスが心に沁みしたのは、深夜2時過ぎのどす黒い担担麺がキツ過ぎたせいかもしれません。いい経験でした。

お陰様で、信じて励み、参加するほどに中央会の楽しさを実感するようになりました。多くの事業を通じて、本気で取り組みれば必ず得るものがあることにも、中央会には素晴らしい先輩と仲間恵まれていることにも気づくことが出来ました。

新入会員のみなさんは、よくわからないことも多く不安もあるかもしれませんが、是非、都合をつけて事業に参加して、いろんな会員に話しかけてみてください。中央会の財産は人ですから、仲間ができ、得難い経験とともにあなた自身が磨かれていくはずですよ。

佐々木 尚

（株葬仙 経理部長）



翔人になるために ～ de Japón ～

第42期会長 竹ノ内賢一郎

『男の美学』

42期がスタートして、5か月が過ぎました。半期のターンの手前で改めて自分の手帳を見ながら考えてみると、今までに経験したことのないようなスケジュールをやり繰りしていました。社会に出てからの約20年。今まで何をしてきたのだろうと反省をしているのですが、自分自身で会長職を受けるにあたって、決めていたことがあります。

それは『仕事のペースも緩めない!』でした。当然、会社のスタッフにも迷惑をかけていることと思いますが、この1年…いや、おそらくこの先も、手を緩めることなく目の前にある、そして今後、立ちはだかるであろう物事に逃げずに全力投球で向かうこと!これが私の男の美学かもしれません。わたくしは残り半期、自分の美学を貫きます。



勇気ある決断

副会長 奥森秀夫

私にとって今までの人生で最大の「勇気ある決断」は、大阪からこの鳥取に移り住むと決めた時だったと思います。今から14年前、23歳の時にやってきましたが、その4年前、19歳の時にはOBでもある父の奥森隆夫と約束を交わしておりました。若いって怖いなと思います。

それから鳥取県人として生活をし、仕事をし、中央会活動をしてと忙しくやらしていただいております。今のところそれ以降、決断は日々いろいろな形でしておりますが、勇気あるとまでの決断は正直していないと思いますが、これから何事もなければ家業を継ぐ予定ですが、初めてその時に「勇気ある決断」を迫られる多数の場面に出くわすのだと思います。その時の為に今は自分の立場での決断をしていき、「勇気ある決断」ができる人間になりたいと思います。

県青中サッカー部 初試合!



11月20日(日)とりぎんバードスタジアムにて、県青中サッカー部VSガイナレスクールの試合を行いました!朝は雨が降っていましたが、試合中は降ることなく最高のピッチコンディションでプレーすることができました。

試合は20分×3本で行い、1本目0-2、2本目1-0、3本目0-0、トータル1-2で敗戦しました。ガイナレの前座試合でしたので、沢山の観客の方がおられ気持ちよく試合ができました!竹ノ内会長もFWとして出場し、全力でボールを追いかけられていました!松岡県会長は監督としてベンチから声が枯れるほど声を出しておられました!敗戦しましたが、初の試合で1点取れたという結果が出たことは素晴らしいことだと思います。5月には鳥取JCさんと試合がありますので、今度こそ勝てるよう頑張っていきたいと思います!!

(記事:足立鷹大)

私の 己だわり

永井拓未 (株)クラム 営業部長

蕎麦は冷たいの、うどんは温かいの、味噌はとんぼろ味噌などこだわりがありますが、仕事や勝負ごとにはこんな心構えがあります。

普段の仕事では、策を弄したり、駆け引きしたりするのは当然です。でも、大きな決断を下すときや、難しい状況に追い込まれたとき、勝負どころを迎えたときは正直に、正々堂々真正面から突破することです。これに勝るものはありません。それはとても憂鬱で失敗することもあります。乗り越えると清々しい気持ちで自分に力がついたと実感できます。苦痛と情熱はセットだと高校時代の野球部の恩師に教わりました。人間は苦しいから、情熱を感じ、それを乗り越えてゆけるということです。苦勞から逃げず、苦勞を楽しむ心を鍛えていきたいです。

佐嶋工務店 新社屋完成

株式会社佐嶋工務店の本店新社屋が米子市義方町に完成し、11月7日に営業開始されました。

営業の基盤を米子市に移すことにより、より多くのお客様の夢づくりのお手伝い出来るようになり、鳥取県産の木材を利用した補助金も適用されるようになりました。

是非、新しくなった佐嶋工務店へお立ち寄りください。

一緒に夢づくりを語ってみませんか?

(記事:武田)

12月役員会報告

平成28年12月役員会が同月1日(木)米子市公会堂集会室1にて開催されました。

当日の主な内容は以下のとおりです。

・11月例会報告の件 ・12月例会開催の件

・1月新年例会開催の件

詳細については各委員長にご確認下さい。

12月例会案内

と き:平成28年12月15日(木) 19:00~23:00

と ころ:松涛園

内 容:第1部 講演及び匠体験

テーマ『伝統文化の精神と魂の継承』

講師 奥日野源流太鼓 代表 大柄重人氏

演題 【太鼓が響く風景】

第2部 忘年懇親会

担 当:第42期 匠委員会

編集後記

新入会員以来、4年振りの例会司会を務めさせていただきました。前回より少しでも成長した姿を見せたいと思い、精一杯頑張りましたが、内心は緊張でドキドキでした。最近、私も含め卒会年度の方の司会が多いですが、入会歴の浅い若い会員にも沢山経験してもらいたいと改めて感じました。

(広報委員会 宮田)